

他宗教を尊ぶ キリスト教とは

宗教は平和をさまたげるものか

異なる宗教や思想への寛容は、
深い宗教的な確信があってはじめて生まれるものです。
自分にとって信仰がかけがえのないものであることを知る人は、
他の人にとっても同じようにその人の信仰が
大切であることを共感できる人です。

森本あんり

もりもと あんり／東京・国際基督教大学教授

九・一一のテロの後、ジョン・レノンの「イマジン」という曲がよく聞かれるようになりました。「天国も地獄もなく、国も宗教もない世界を想像してごらん」と呼びかける、あの曲です。世界に起こる多くの紛争や対立が、宗教の名のもとに起きている。だから宗教がなくなれば、人々はきっと平和に生きることができるよう——そういう彼の考えに同意したくなる人は少なくないと思います。

私も「イマジン」のレコードは、お小遣いをはたいて買った中学生の時から聴き続けてきました。けれども、あのアルバムの裏面には、ビートルズ・ファンにとって少し悲しい曲が入っています。ジョンがポールと仲違いなやまひをして、相手に辛辣しんれつな皮肉をぶつけている曲です。やがて二人の不仲が原因で、ビートルズは解散してゆきました。A面では世界の平和を訴える彼が、B面ではもつとも近い仲間とすら仲良くできないでいる……。たとえ宗教がなくなつたとしても、人間が平和に生きることがやっぱり容易ではなさそうだ、と思わされるのです。平和の君キリストを信ずる私たちが、平和を創り出す者として召されていることは、言うまでもありません。しかし一方では、

ジョンのように、宗教があるから戦争が起

きますのだ、という声もよく聞かれます。も

し、一つの宗教を信ずることが、必然的に
他の宗教を軽んじたり否定したりすること
につながるのだとすれば、キリストを信じ
つつ平和を求めることは、はじめから矛盾
した不可能なことだ、ということになって
しまうでしょう。私たちは、自分の信仰と
他宗教の人々の信仰との関係をどのよう
に理解したらよいのでしょうか。世界がネッ
トワークでつながれ、他宗教の人々との出
会うことも多くなつた今こそ、このことをし
っかりと振り返って考えておくべき時だと

*

思います。
他宗教の理解を云々する前に、まず私
ちが自分の宗教をどのように信じているか
を考えてみましょう。

よく尋ねられることがあります。「キリ
スト教徒はみな自分の宗教が一番だと思っ
ているのですか」。——そう聞かれた時、
私は「はい、その通りです」と答えること
にしています。「ああ、やっぱりクリスチ
ヤンというのは独善的な人々なのだ」と半
分納得しかけたその相手に、「でもそれは、

キリスト教徒だけに限りません」と付け足
して説明します。

実は、自宗教こそが一番だという思い入
れは、世界の諸宗教で至るところに表明さ
れていきます。ユダヤ教徒が毎朝捧げる感謝
の祈りには、「自分が非ユダヤ人に創られ
なかつたことを感謝します」という一節が
あります。仏教徒は、ブツダの教える四諦
八正道こそ「それ以外に道はない」唯一の
救いであると信じています。ヒンドゥー教
徒は、『ヴェーダ』こそ永遠のダルマつま
り道・真理・命であると信じています。イ
スラム教徒にとって、『コーラン』は何も
のも越えることのできない神の最終的な啓
示です。このような信仰のあり方は、どの
宗教にも共通している基本だと言えるでし
ょう。

かつて一〇〇年以上も前にキリスト教に
とつての他宗教の意味を研究したトルルチ
という人は、すべての宗教は「絶対宗教」
として生まれる、と言いました。どんな宗
教であれ、信ずる人にとってその宗教は絶
対的な妥当性をもつ真理として受け止めら
れる、という意味です。信仰は、個々人の
出発点においては、ここにこそ私の救いがある、
という確信があつてはじめて成立す



るわけですから、その時に「他の宗教の方がよい」とか、「別にどの宗教でもかまわない」とは言わないでしょう。右に挙げたすべての宗教の信者に向かって、「そういう信じ方は争いのもとだからやめなさい」と言うことは、けっして「他宗教を尊ぶ」ことにはならないと思います。

*

では、結局すべて信仰をもつ人はみな独善的で不寛容なのでしょう。そうではないと思います。信仰の「絶対性」は、他宗教との比較の末に得られた結論ではありません。それはちょうど、幼稚園の子どもが「私のお母さん世界一よ」と言うようなものです。子どもがそこで言い表しているのは、「お母さん大好き」「お母さんありがとう」という素朴な信頼と感謝であって、友達のお母さんと比較した上での発言でもなく、まして世界中のお母さんを調査した上での結論でもありません。

信仰もそれと同じです。だから信仰の表現は、「比較級」ではなくていつでも「最上級」なのです。ヒンドゥー教の教えに「第二のない第一」という表現があります。これも同じことを表しています。神さ

まは、他の何ものかとの比較における「第一」などではありません。相対的に一番目ではなく、他との対立を絶して、つまり「絶対」的に一番目なのです。

ということとは、「自分の宗教が一番だ」と言うことは、他の宗教が「劣っている」とか「誤っている」と言うことにはつながらない、ということ。その本人にとつて、とにかく今の自分がその信仰で救われた、という事実を確認し、それを喜んでい

るのがこの言葉です。他の人にもそういう事態はあるでしょう。だから、私の「一番」は、他の人の「一番」と両立可能なのです。幼稚園の友達が「私のお母さんも世界一よ」と言ったとしても、けんかにならず二人で一緒に自分のお母さんを喜べる。それが相対的でなく絶対的な信仰の両立のあり方です。

*

「でも」と問う人はあるでしょう。キリスト教徒は他宗教のことを「偶像礼拝」と考えているのではありませんか？——ヒンドゥー教徒が牛を崇めて（あが）いるのを見て、被造物を神とするのは偶像礼拝だ、と非難するのがキリスト教の信仰なのでしょうか。

たしかに、従来の宣教にはそのような考え方もあったと思います。けれども、二十世紀に生きる私たちは、もう一度聖書に帰って「偶像」という言葉がどのように使われているかを読み直すことが必要だと思います。古代東方の世界では、それぞれの民族がそれぞれの神を信じている、ということは半ば当然の前提でありました。しかし、他の人々が他の神々を信ずることの是非について、聖書はあまり語りません。「偶像礼拝」という非難が向けられてい



岩波講座

全10巻

宗教

〔編集委員〕

池上良正・小田淑子・島蘭進
木本文美土・関一敏・鶴岡賀雄

現代世界は宗教の視座を抜きにしては把握し得ない。宗教の理解をおおして社会と個人ありかたを問い直す。〔全巻発売〕〔内容案内進呈〕

るのは、旧約でも新約でも、ほとんどの場合、他宗教の人々ではなく、自宗教の人々です。自分の神を信じていると言いながら、他の神々に色目を使う人々のことです。他の神々は、自分の信仰に危機をもたらず限りにおいて「偶像」となるのです。そのことを取り違えて、他宗教を「偶像礼拝だ」と言うことは、少なくとも聖書的な見方ではありません。

*

じょうにその人の信仰が大切であることを共感できる人です。逆に、宗教に無関心な人は、一見寛容なように見えますが、諸宗教の尊さを本当には理解できないでいることがあります。

「宗教は名前こそ違いますが、結局どれも同じだ」という意見もその一例です。「あなたの宗教が言っていることは、とどのつまり他の宗教が言っていることと何も変わりません」と言うことが、その人の信仰を尊ぶことになるでしょうか。他宗教を尊ぶということ、その違いを固有性として認め、私たちがその人々の信仰の深さに学ぶことができます。親鸞おんらんを読むとルタールターの信仰義認論がよくわかるように。

他宗教を尊ぶキリスト教とは、自分の信仰を隠したり曖昧あいまいにしたりするキリスト教ではありません。そのような人は、対話の相手にも信頼してもらえないでしょう。自分の信仰に明確な責任をもってこそ、相手も信頼して語りかけてくれるのです。

対話から共存や協力へと進む道も、違いを認めた上での、この相互信頼から出発します。二十一世紀のアジアに生きる私たちは、これまでの歴史の成果と過ちに学びつつ、キリスト教と他宗教との関係を新たに展望する絶好の機会を与えられています。自分に与えられた尊い信仰を神に感謝し、それを心から余念なく証しつつ、隣人のもつ尊い信仰に学び合う群れになりたいと思います。

Ω

1 宗教とはなにか

〔序論〕関一敏 A5判 本体3400円
いま、宗教の理念が揺れ動き、宗教研究の役割が改めて問い直されている。新たな宗教の定義を模索する試み。

2 宗教への視座

〔序論〕小田淑子 A5判 本体3400円
どこに着目しどうアプローチするかにより、多様な相貌を見せる宗教。宗教の理念と現実社会の関わりを解明する。

続刊の構成

3 宗教史の可能性

根拠へ―思索の冒険

4 言語と身体

―聖なるものの場と媒体

5 絆―共同性を問い直す

生命―生老病死の宇宙

6 暴力―破壊と秩序

7 宗教の挑戦

8 宗教のゆくえ

宗教の系譜

―キリスト教とイスラムにおける権力の根拠と訓練―

T.アサド／中村圭志訳

西洋の知のヘゲモニーの歴史と構造をイスラームと対比しつつ鋭く抉り出す。近代学問が隠蔽した知の異なった起源とは？ A5判 本体6000円

新約聖書

新約聖書翻訳委員会訳

原典に忠実な翻訳と周到な注釈により、もう一つの読み方を提案する日本語訳。 B6判 本体4700円

〔同時発売〕机上版 A5判 本体5700円



岩波書店

東京・千代田・一ツ橋
(定価は表示価格+税)

<http://www.iwanami.co.jp/>